

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年9月13日(木) 午後7時～8時31分
会 場 富士見台会館(富士見台町内会)
天 気 晴れ

参加者 60人

主な意見等(◆・・・参加者 ☆・・・市長)

◆水道管の耐震化はどの位進んでいるのか。

☆進捗率は後日お答えします。現在耐震性のものに交換はしていますが、地震は今日か明日かいつ発生するかはわからない。3日間の飲料水については、確保するため準備はしている。火を消すために必要な消火栓は、水道管が使えなくなると消火できない。阪神淡路大震災でも同様な事態になり、消防車が錆びることを覚悟して海水を利用して消火作業をした。

◆大井総合支所を新築するが、隣接する大井中央公民館の耐震性はあるのか。

☆大井中央公民館は、耐震性を満たしていない。しかし、道路の幅員も広げるので例え大井中央公民館が倒壊したとしても被害はでない。

◆高齢化率が高くなっているが、上福岡地区は、歩道が斜めになっている所が多く高齢者が歩きにくい。工事実施時には、平にしてほしい。また、私道の寄附採納を受けてもらえないと聞いている。そのため売却する人がいる。財政が厳しいなら数年後に採納を受けるなどしてほしい。

☆私道について、予算が無いから受けないということはしていない。採納の基準を満たしていれば受けます。幅員が4mに満たない、人の同意が得られていないなどがある場合には受けていない。

◆富士見台地域は、耐震化を満たしていない家屋が多い。重要なことは、1つは15分以内に火災を出さないこと。そのためには、訓練が必要で、訓練しないと実践できない。2つ目は、食糧や飲み物などの防災用品は自分たちで確保する必要があること。災害時に配るのではどうしようもない。3つ目は、災害時には消防車が来ないと思った方がよい。自分たちで消さないとならない。そのためにも火災を起こさない訓練が必要。4つ目、現場の設備充実が必要。設備があればいざという時に対応できる。まずは足元を固めることが大切。5つ目は、この地域は木造が多く、火が出た時には熱で近くには近づけないので、広域的な避難場所へ逃げざるを得ない場合がある。そのための避難訓練が必要。それをしないと本番では対応できない。6つ目は、電力の確保が必要。情報を連絡するには、バッテリーなどの電力がないとできない。7つ目は、防火用水や発動機で動く消火設備の重点化が必要。

☆貴重なご意見ありがとうございます。火災の発生が一番怖い。15分以内に火

を出さないということは大切なことで、地域でそのような訓練をすることは必要かと思えます。防災用品は自分たちで確保する必要があるという意見はありがたいことですが、現在、防災倉庫に確保している3日間、72時間の食糧につきましては、1日2食として、1日分は市、1日分は県、もう1日分は各家庭でというものです。各家庭全てが全くだめになることはないので、冷蔵庫の中身なども活用でき、各家庭で1日分の備蓄をお願いしたい。災害時に消防車が来ないと思った方がよい点はその通りだと思います。想定は最悪のケースを考えておいた方がよい。避難所は、この地域は福岡中と一部は福岡小であるが、いざという時にはすぐに避難所に逃げないでほしい。発生する場所や時間帯によって違ってくる。昼か夜か、平日か土日か、夏か冬かなどによって違ってくる。例えば、冬の北風が吹いている夕方の夕食時で火を使用し、ヒーターも使用していれば、火災が各地で多発する。火が福岡中方面で発生すれば、そちらに逃げるのではなく、身近な公園など安全な場所に逃げてほしい。そして、近所のお婆さんなどがいなければ皆で助けてほしい。電柱が倒れてきたり、余震もあつたりするので、まずは安全な場所で自分の命を守ってほしい。また、皆さんは家にいる時に被災すると想定している。しかし、買い物に行っている時かもしれないし、出先にいる時かもしれない。その時は、まずは安全な場所に逃げて自分の命を守ってほしい。落ち着いてから、出先ならその行政機関の避難所に行つてほしい。先程の消防車が来ないと思った方がよいという点については、簡易消火栓を整備したり、東京都のように、道の狭い地域で通常の消火栓が使用できるような器具を整備したりしたいと考えています。しかし、全世帯の装備を整備することは不可能なので、家のタンスの転倒防止など皆さんができることは皆さんで整備してほしい。また、家の図面を建築課に持ってきてもらえれば耐震性の簡易診断を無料でできるので利用してほしい。耐震性が必要となれば、専門家の診断を受けてもらうこととなりますが、補助制度もあります。昭和56年以前の家が全て倒壊するわけではなく、地震の周期によって違ってくる。阪神淡路大震災では揺れが大きく家屋の倒壊で亡くなった方が多かつた。また、揺れで倒れた家具に挟まって動けなくなり、その後、家が倒壊して亡くなる方も多かつたので、家具の転倒防止も有効なので実施してほしい。備えとして、枕元に運動靴やスリッパを置いておくといい。ガラスが割れると家中に散乱し、怪我をして逃げ遅れるケースもある。自分たちで用意できるものは備えてほしい。基金を活用し行政もできるものは備えていきます。電力については自分たちではどうにもならないが、防犯灯をLEDにしたり、ソーラーを活用したり、また、数メートル間隔にはバッテリーを備えたものを設置するなどを考えていきたい。

◆上司が阪神淡路大震災を経験した人で、その人は、ロウソクではなく、電球が1つ点くだけで安心感ができると言っていた。それが助かつたと言っていた。そのような整備もお願いしたい。

☆追加でお話ししたいのですが、水と食料以外に大切なものはトイレ。現在、想

定する避難所での生活者11,363人のうち50人に1人分としてトイレは用意している。しかし、これは避難所で使用するもので、自宅に避難している人の分は用意していない。段ボール式の安価なものがあるので、各家庭で備えてほしい。また、市で備蓄している1日分の食糧は、先ほどの11,363人分なので、3日分の食糧確保は各自で備えてほしい。防災行政無線のバックアップについては、頻繁に使用しなければ72時間もつものとなっている。

◆BCP（業務継続計画）について。

☆県内で作成している市町村は、川口市のみ。作成しなければならないもので、現在、作成に向けて検討している。

☆7月に北海道から石垣市までの市町村長が参加した防災の研修に行った時に、津波がなく内陸はよいと言われた。また、総務省の方の話では、想定外はいくらでも高くできる。しかし、100mの津波を想定したら対策はできない。対策ができる想定が必要。人間の心理として、揺れても何も起こらないことが続くとも揺れに慣れて何もしなくなるので、継続して意識を高める必要がある。そのことを地域の集まりの時などに話してほしい。

この地域は、地盤が安定しているためなのか震度が低い傾向がある。

今後も防災備品を充実していきたい。バールが1本あれば助かった命があると言われている。また、たる木1本で持ち上げられるものもあるので、各家庭でも何が利用できるかなどを考えてほしい。

◆バンドエイドやサランラップがあるとよい。サランラップは水がない場合に活用でき、また、体に巻けば温まることができる。

☆救急用品についても、3年間での整備の対象としていきたい。皆さんと行政がそれぞれ並行して一緒に備えていきたい。

◆防災倉庫が完成し、アルファ米や水を備蓄している。5年間もつアルファ米を5年計画で購入し、今後はそのうちの5分の1を防災訓練などに使用し、使用した分を新たに補充する予定でいる。市として支援できないか。

☆限りある予算ですが、考えていきたい。しかし、現在は、防災無線の整備などハード面に予算を充てている。できれば、各家庭でも備蓄品について消費期限をずらして購入してもらい、循環するようにしてほしい。

◆新田保育園の道路について、大雨が降ると水が溜まってしまう。

☆ゲリラ豪雨の時だけだと思いますが、調べてみます。当時は、時間雨量を計算して管を設置したが、現在は、想定を超えた雨量が降るので管がはけなくなっている。